

世界的数学者



高木貞治

たかぎていじ

1875-1960

大野郡数屋村(現在の本巢市数屋)に生まれた。幼少期から神童といわれ、小学校は飛び級で進級した。東京帝国大学卒業後は官費でドイツに留学し、世界最高峰の数学を学んだ。帰国後は東京帝国大学の教授を務め、多くの後進の指導にあたり、日本数学界の進歩に大いに貢献した。1920年には「高木類体論」といわれる論文を発表し、世界数学界の流れをかえた。

フィールズ賞の選考委員や、数学者国際シンポジウムで名誉議長にも選出され、文化勲章や勲一等旭日大綬章も受章されている。数学者としてその名は世界に認められている。